

ポラス
越谷市と協定 築150年内蔵を寄贈



同社と市は、まちづくりに関する基本協定を締結。中央
住宅の品川典久社長(写真左)と高橋努・越谷市長

旧日光街道の活性目指し

ポラスグループの中央住宅は13日、築年数約150年の「油長内蔵」を埼玉県越谷市に寄贈した。同社は2013年11月に戸建分譲用地を取得。約6000万円をかけた、現存していた内蔵(家財道具や衣類を保管する蔵)を移設・補修し、15年夏に竣工した。ほかに現存していた米蔵・粕蔵は解体し、古材や瓦、飛び石を、分譲戸建て「ことのは越ヶ谷」(全4棟)に再利用した。

空き家・古民家 再生拠点に

「ことのは越ヶ谷」は蔵との調和を重んじ、坪庭や縁側、茶室、土間など異なる和のコンセプトで建築。蔵の修繕費などを含め5480万〜6780万円で購入し、16年3月から約半年で完売した。寄贈した内蔵は、旧日光街道活性化や、市内の空き家対策、古民家再生などの拠点とする方針。「ことのは越ヶ谷」の入居者が組合を作り、周辺環境の維持に努める。